

第2 劉茜懿監督の新作映画『鑑真に尋ねよ』の企画 (『がんばったで! 45年』219頁掲載)

1. 劉茜懿監督の新作映画『鑑真に尋ねよ』の企画が着々と! (事務所だより第26号・2016年新年号より)

- 1) 北京電影学院卒の才媛・劉茜懿さんとの交友録は事務所だより第24号(2015年新年号)に掲載した。
- 2) 『鑑真に尋ねよ』の撮影は、奈良の唐招提寺や高野山はもちろん中国本土でも進められているが、彼女の戦略は、映画の完成とは別に各地で開催する「個展」で撮影したネタを写真として紹介するもの。5月10日から東京のドイツ東洋文化研究協会で開催された「後作品時代 POST ARTWORKS GENERATION」と題する個展は強烈で新鮮だったから、この戦略はいかにも美術系アーティストの彼女らしい発想だ。
- 3) 2015年6月28日～30日と北京で一緒だった彼女は、その足でニューヨークへ飛び、そこでの個展も成功させたが、2016年春には南京でも個展の企画が進行しているようだ。さらに、富士ゼロックス株式会社の小林節太郎記念基金を使った研究では「視覚芸術作品<鑑真>の創作～時空超越と哀愁を主としたポストモダンの視覚表現の研究～」というテーマで、論文を完成させている。
- 4) 劉さんとの情報交換は東京中心だったが、近時は都島の自宅に宿泊しての大阪周辺での活動も増えてきた。2015年11月には都島の自宅に2連泊してさまざまな情報交換をした他、大阪城の見学とカンヌ国際映画祭で脚本賞を受賞したアンドレイ・ズビャギンツェフ監督の『裁かれるは善人のみ』(14年)の鑑賞を。その日の食事では坂和流の日本史の講義と坂和流の映画評論がネタとなって、楽しい議論がいつまでも。



①カニ鍋の前で映画のパンフと共に



②都島の自宅前で